

## 【成果速報】

# ニラフシダニに効果のある薬剤について 検討しました

### 【背景】

令和4(2022)年7月、県内のにらほ場において、葉が湾曲し奇形化する症状が認められ、被害部位からニラフシダニ（フシダニ科の一種）が確認されました（図1）。被害株では、寄生部位に水疱状の症状を生じるほか、葉の湾曲や水疱の痕跡が認められます（図2）。

本種は新種であるため、詳細な生態や効果的な農薬に関する情報がなく、現時点では登録農薬もありません。そこで、農薬の殺虫効果に関する基礎的な試験に取り組みました。

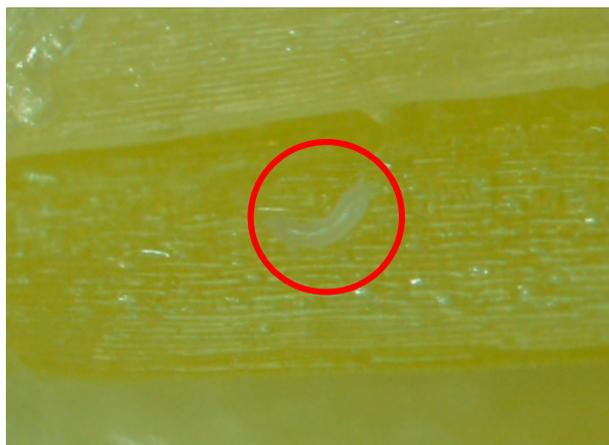


図1 茎葉内部のフシダニ



図2 フシダニによる被害の様子  
(湾曲し、水疱の痕跡が認められる地上部)

### 【結果】

供試したにらは、株の地際から3cm程度の位置で切り戻し、当日にジョウロで株上から供試薬剤を株元灌注処理しました。供試農薬の殺虫効果は、処理18日後のニラフシダニによる被害を以下により数値化して評価しました。

$$\text{被害度} = \left[ \frac{\sum (\text{程度別被害個体数} \times \text{指数})}{4 \times \text{調査株数}} \right] \times 100$$

0:症状なし。1:葉には見られないが茎葉の基部の内側にわずかに水疱あり。

2:葉にないが茎葉の基部の内側に水疱あり。3:葉に水疱の痕跡がみられる。4:葉の奇形。

その結果、無処理と比較してA剤で高い効果が認められました。なお、本剤は現時点でニラフシダニに対して農薬登録がされていません。今回その効果が明らかになったことから、今後は農薬メーカーにより農薬登録申請の予定です。

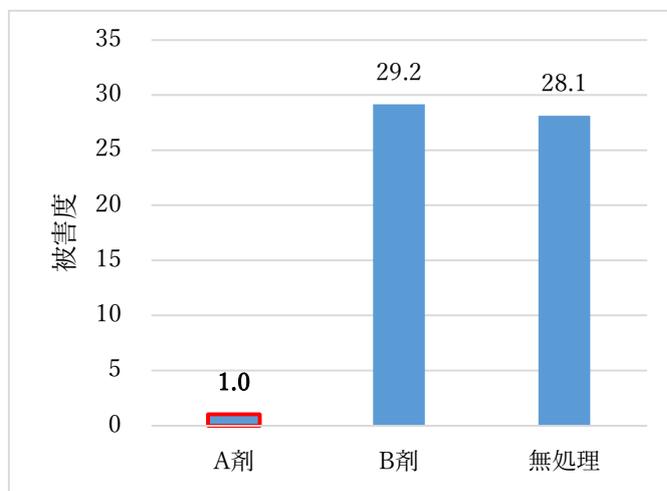


図2 ニラフシダニに対する薬剤効果の試験

(病理昆虫研究室 吉澤 比英子)